

■井上毅 官僚政治家。薩長藩閥で無いにもかかわらず、帝国憲法・教育勅語など重要な政策・起草に指導的な役割。

いのうえこわし

天保改革終・1844＝ 熊本城下竹部で藩家老の家臣の子に生まれる。

阿部正弘首座1845＝ 1歳：

ペリー来航・1853＝ 9歳：

幼くして神童ぶりを謳われ、

家老の米田是容に認められて藩儒に入門、

桜田門外変・1860＝16歳：

ついで藩校時習館の居寮生となる。

生麦事件・・・1862＝18歳：

禁門の変・・・1864＝20歳： 閑居中の横井小楠を訪問して談話を記録「沼山閑話」。

薩摩藩士密航1865＝21歳： 同じ家中の井上家の養子となった。

大政奉還・・・1867＝23歳： 江戸遊学を命じられ、フランス語を学んで、帰郷。

明治維新・・・1868＝24歳： 奥羽戦争にも従軍した。

初の日刊新聞1870＝26歳： 上京し、_大学南校に入って中舎長になると、「学制意見」を提出。

廃藩置県・・・1871＝27歳： _司法省に出任、法制官吏となる。

学問のすすめ1872＝28歳： _司法卿江藤新平の随員となり、江藤は中止するも渡欧、フランスでポアソナードらの法学講義を受けて、

明治6年政変 1873＝29歳： ベルリンにも赴いた後、_帰国。別途、名村泰蔵がポアソナードを帯同して帰国。

佐賀の乱・・・1874＝30歳： *台湾出兵戦後処理で清国出張の大久保利通に、ポアソナードと随員、意見書を提出して、頭角を現す。

初の民間工場1875＝31歳： _「王国建国法」を訳出刊行して、プロイセン憲法を日本に紹介。「立憲政体」を起草し、大久保らに提出。

三つの反乱・1876＝32歳： _ポアソナードからの憲法草案を受けて、岩倉具視に「憲法意見書」を提出。明治天皇から起草命令。

西南戦争・・・1877＝33歳： 太政官大書記官。大久保に(肥後力食社意見)を提出、設立許可を受けて熊本の復興に貢献。

大久保暗殺・1878＝34歳： ロesslerが来日。地方官会議御用掛、内務大書記官を兼務。_「都区町村編成法」等、三新法を上程。

・・・1880＝36歳：

明治14年政変1881＝37歳： *元老院国憲案を却下して、プロイセンに範をとった君権主義的憲法を採用するよう、次々意見書を右大臣岩倉に提出して認められ、大日本帝国憲法の基準となる。〈明治14年の政変〉では参謀として活躍、伊藤博文に国会開設も意見、新設の参事院議官となる。福沢諭吉に対抗して「人心教育意見」を提出。

新体詩抄・・・1882＝38歳： ロesslerが「日本銀行」設立の意見書、私議憲法に関して答議。京城事件のため、朝鮮に派遣される。_「憲法試草」を岩倉に提出し、「李国(プロイセン)憲法」を出版。

岩倉具視没・1883＝39歳： ロesslerが「独逸学の利害および国家に対する得失」を刊行。

秩父事件・・・1884＝40歳： ロesslerが、日本初の「日本商法典草案」を日・独語で刊行し、「行政裁判法」起草。井上馨に随員し、朝鮮で漢城条約を締結。_伊藤博文が制度取調局長官に就任、伊東巳代治・金子堅太郎とともに、憲法起草委員になる。6年の政府雇用契約となったロesslerとともに伊藤博文に協力して行く。

内閣発足・・・1885＝41歳： ロesslerが勲二等旭日章後、アントワープでの第1回万国商法典国際会議に、日本代表として出席、ベルギー皇帝よりレオポルド勲章。特命全権大使伊藤博文の渡清に、伊東巳代治・ロesslerとともに随員し、天津条約を締結。_内閣制度の開始に当たっては、伊藤の下で一切の企画に当たり、

帝国大学始・1886＝42歳： _伊藤博文首相から「憲法」「皇室典範」の立案を委嘱され、

国民之友始・1887＝43歳： _「憲法第一次案」続いて「甲乙二案」を提出。ロesslerも「日本帝国憲法草案」を提出、伊藤首相の夏島別荘に委員集まって討議し、

初の対等条約1888＝44歳： _憲法成案がまとまる。枢密院書記官長となり、「憲法義解」を完成、「皇室典範説明文」を伊藤議長に提出、憲法制定会議の司会を務め、

帝国憲法発布1889＝45歳： *枢密院の審議も完了、「憲法義解」「皇室典範義解」出版、功績に、勲一等瑞宝章。法制局長として「内外臣民公私権考」出版。臨時帝国議会議務局総裁就任するも、大隈重信外相に反対し辞表、「条約改正意見」提出。

帝国議会始・1890＝46歳： _枢密顧問官となる。「教育勅語」の起草にあたっては、元田永孚の儒教的君主論を抑えて、勅語の中立性を確保して、権威そのものに高めるよう尽力し、成文化に至る。ロesslerは最後の3年契約。

足尾鉞毒始・1891＝47歳： _「大津事件意見」を提出し、司法権独立を維持。伊藤博文の貴族院議長就任に伴い、文書秘書課長。

大本教・・・1892＝48歳： _条約改正調査委員、

郡司千島探検1893＝49歳： _契約終了ロesslerが離日。第2次伊藤博文内閣の文部大臣となり、

日清戦争始・1894＝50歳： *高等学校法令など制定するも、持病の結核が重症化して、辞任、

日清戦争終・1895＝51歳： _日清戦争遂行に関与できないことを悔やみながら、没した。

冷徹な政治的リアリストで、儒学の非実用的性格を排し、尚武の気風と「韓非子」などの統治術を尊び、また政治における“機”を重視した。中江兆民は“真面目なる人物、横着ならざる人物”として評価している。